

2月23日(月) Singapore General Hospital

報告：白田佑子 (Group B)

午前7時に、ホテルのロビーで全員集合して出発しました。快晴の中を徒歩で移動し、町中に立ち並ぶ超高層アパートを眺めながら Singapore general hospital(SGH)を目指しました。SGHは、1900年代初頭に、シンガポールで初めて医学・看護学校を始めた、歴史ある施設であるとのことで、研修初日以来もう一度気を引き締め、新たな気持ちで研修に臨みました。

Sing Health Polyclinicsでは、まず初めに、Dr. Tay Ee Guanにお会いし、シンガポールでの医療体制、特に Sing health groupの3病院と、5つのセンターについて伺い、また医療保険に関する御説明いただきました。そして Dr. Tay Ee Guanの先導で、general practitioner (GP)外来の施設を見学させていただきました。



【外来の掲示】

シンガポールでの診療は、GPの診察後、必要があれば specialistに紹介する方式とのことで、見学させていただいた外来診療でも、日本では未だはっきりしていないプライマリケア分野が、専門分野としてしっかりと存在していました。長年、総合診療分野を目指したいと考えていた私にとって、大変勇気づけられる外来診療でした。短い時間でしたが、一つのロールモデルとして、総合病院施設内にあるGP外来を見学できたことは本当に良い経験であったと思います。

しかし、私にとって最も印象的であったのは、そういったシンガポールの医療事情そのものではなく、Dr. Tay Ee GuanとSGHの研修医たちがすれ違ったり、出会ったりする度に交わす握手でした。指導者とその教え子が、お互い自然に手を伸ばし笑顔を交わして握手を求める姿は、日本ではまず考えられない光景ではないでしょうか。そんな光景に何度も何度も目を奪われつつ、Dr. Tay Ee GuanにGP外来を案内していただきました。

次は救急部門を見学させていただきました。SGHの救急部に患者が到着すると、院内にストレッチャーを搬入する前に、救急車の傍らで、発熱や咳嗽といった感染徴候の有無が確認されます。そして、感染を疑う場合には、Isolationと書かれた扉から院内に入ります。それ以外の場合はその隣にある扉から院内に搬入され、Triageが行われます。

日本では、ストレッチャーを搬入しつつまずVital確認、であり、搬入先もすべて一緒である施設が多いと思います。また、さらに驚いたことに、救急部入口から数秒でたどり着く場所にPoliceの窓口がありました。私はちょうど、救急部をローテート中に今回の海外研修に参加させていただくことになったこともあり、こういった救急部での患者受け入れの仕組みや安全対策、また救急専門医の在籍数の日本との圧倒的な格差には大変驚かされました。SGHの救急専門医は、100人以上在籍されているそうなので、私の研修している

病院の約 10 倍です。

次に、病棟を 2 グループに分かれて見学しました。私は、新生児病棟と内科の外来を見学させていただきましたが、やはり、シンガポールでも少子化が進んでいるのだそうです。患者の両親は大病院に子供を連れて行きたがり、特に新生児分野では、病院ごとに専門とする分野も異なり、それぞれの病気・治療を得意とする病院に搬送することもよくあるとのことでした。シンガポールの新生児たちは、日本の新生児と似た境遇にあるようです。また内科専門外来では、アレルギー専門看護師の方にご案内いただきました。シンガポールでのアレルギーとしては、ダニやカビが主流とのこと、ダニに関しては日本同様ですが、カビが主なアレルギーに含まれるとは、モンスーン気候帯にあるシンガポールらしいと感じ驚きました。

お昼には、Dr. Yang Khee Ming から、SGH の教育体制や理念について伺いました。スライドの隅に、小さく、**The better doctor is the learned one.** と書かれていたことが印象的でした。SGH の研修医の先生方もいらっしや、私たち日本の研修医からも、日本の医療制度や研修病院の紹介、また症例のプレゼンテーションを行いました。徐々に打ち解け、現在目指している専門科や、お互いの国の医療制度(特に教育制度、専門医制度など)、保険制度等々について、終了間際には白熱したディスカッションができました。

緊張した SGH での初日を終えた後、夕方にはシンガポールで外来診療をしていらっしやる、Dr. 亀井とお会いしました。



【鈴木先生、知識先生、吉成先生のプレゼンテーション】



【SGH研修医とのディスカッション】